

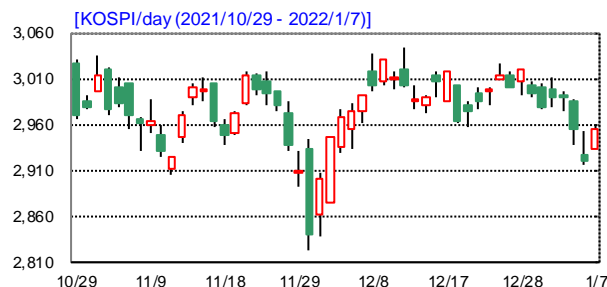


【韓国】 総合指数は週間で0.8%安と3週続落、今週は政策金利発表に注目

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.8%安と3週続落。年明け3日は反発して始まった。21年12月の輸出が前年同月比18.3%増加し、過去最高の607億4000万米ドルに上ったことや、製造業PMIの結果が好感された。翌4日以降は総じて軟調に推移。米ドル高が嫌気されたほか、機関投資家が配当落ち銘柄に売りを出したことが相場の重しとなった。FOMC議事要旨で早期利上げの可能性が示されたことも投資家心理を冷やし、6日終値は約5週間ぶり安値水準。7日は反発。サムスン電子の21年10-12月期決算（速報値）で営業利益が前年同期比52%増と好調で、同業のSKハイニックスなど関連銘柄にも買いが波及した。韓国銀行（中央銀行）総裁が利上げの可能性に言及しており、今週は14日に発表される政策金利が注目されそうだ。

▼指数チャート

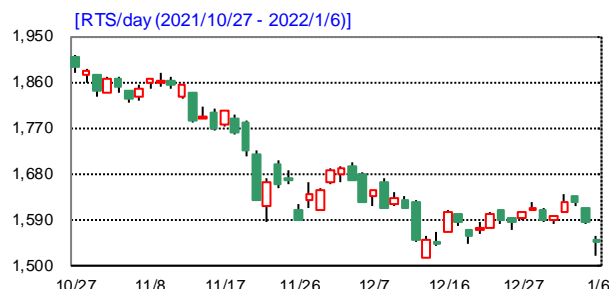


【ロシア】 RTS 指数は3.2%安と3週ぶり反落、今週も地政学リスクが重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.2%安と大幅に3週ぶりに反落。カザフスタンを巡る地政学リスクや米国の金融政策の早期正常化見通しを受け、投資家心理が悪化した。年明け3日は原油高や米ロ首脳会談への期待を背景に前週末比1.7%高となったが、週後半に崩れた。カザフスタンを巡る地政学リスクに加え、米FRBが金融政策の正常化を急ぐ姿勢を示したことでセンチメントが悪化。ルーブルが対米ドルで1.2%下落したことも米ドル建ての指数を押し下げた。個別銘柄では空運のアエロフロート・ロシア航空が6.4%、資源のルサルが1.9%が上昇した一方、産金のポリュスが5.9%、金融のTCSグループが5.2%下落し、エネルギーのスルフトネフテガスは2.0%安となった。今週もカザフスタンを巡る地政学リスクが重しか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.0%高と続伸、今週は先高観を背景に堅調か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.0%高と続伸。不動産、エネルギー、金融株が上昇し、指数は過去最高値を更新した。年明け4日は指数が前週末比1.8%高と大幅に3営業日続伸。海外投資家が買い越しとなる中、金融、エネルギー、不動産が物色され、指数を押し上げた。5日は利益確定売りに押され、指数は0.2%安と反落したものの、6日は不動産や建設株が買われ、再び最高値を更新した。指数は昨年末の1498.28ポイントから6日の場中に1536.24ポイントまで上昇している。個別銘柄では不動産のビンコム・リテール、カンディエン不動産、公益のペトロベトナム電力総公社、エネルギーのペトロベトナム・ガスが2桁高となり、不動産のビンググループ、金融のベトナム投資開発銀行も大きく上昇した。今週は先高観を背景に堅調か。

▼指数チャート



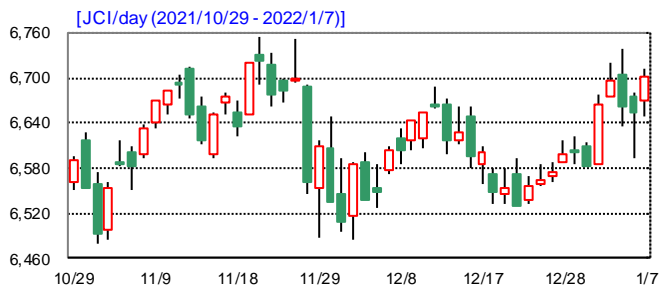


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.8%高、週末の終値は約 7 週間ぶりに 6700 ポイント台を回復

ジャカルタ総合指数は週間で 1.8%高と続伸。週初に反発すると、その後もおおむね堅調に推移し、週末には終値で約 7 週間ぶりに 6700 ポイント台に到達した。連休明けの 3 日は、リビアのパイプライン修復で約 1 週間にわたって石油生産が減少するとの見通しを受けて、原油価格が上昇した効果でエネルギー株が買われ、指数は前営業日比 1.3%高と反発。4 日に続伸した後、5-6 日は売り優勢の展開となったが、7 日は反動で買い戻されて引けた。今週は国内の経済イベントが少なく、中国の貿易統計や米国の小売売上高などの外部要因が焦点。今月 1 日から輸出禁止となっている石炭を巡る動向も意識されそうだ。

▼指数チャート

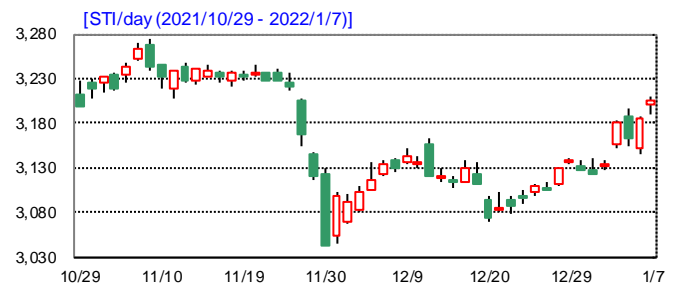


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.6%高、銀行株が指数上昇をけん引

ストレーツタイムズ指数は週間で 2.6%高と続伸。銀行株が指数を支えた。週初の 3 日は、21 年 10-12 月期の GDP 速報値が前年同期比 5.9%増と市場予想から上振れした効果で、指数は 3 営業日ぶりに反発。4 日は業績拡大が見込まれる銀行大手 3 行が買われて前日比 1.5%高と続伸したが、5 日は 3 日ぶりに反落した。ただ、6 日は前日に公表された米 FOMC 議事要旨で、早期利上げの可能性が示されたことを受けて銀行株が指数上昇をけん引して反発すると、7 日は終値で約 6 週間ぶりに 3200 ポイント台を回復して引けている。今週は国内の重要イベントが少ない中、この水準を維持できるかが注目される。

▼指数チャート

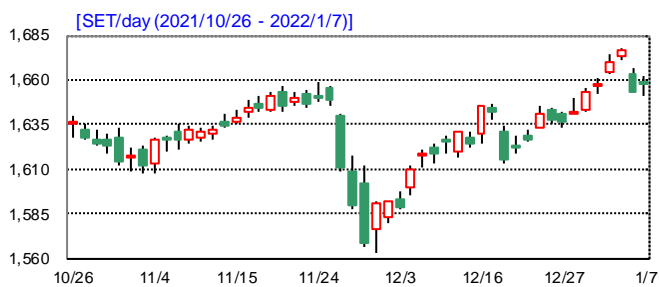


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は前週末から横ばい、原油価格の上昇でエネルギー株に買い

SET 指数は 4 日間の取引で前週末から横ばい。週末の終値は前週末と同じ 1657.62 ポイントだった。年末年始の連休を挟み 22 年の初取引となった 4 日は、前日の NYダウが過去最高値を更新した流れを引き継ぎ、4 営業日続伸。5 日は前日に開催された OPEC プラスの閣僚級会合で、2 月も小幅増産を継続する方針が決まった一方、原油需要の増加が続くとの見通しから価格が上昇した効果でエネルギー株が買われ、指数は終値で 19 年 8 月以来の高値を更新した。6 日は前日比 1.4%安と反落したが、7 日は買い戻されて引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート

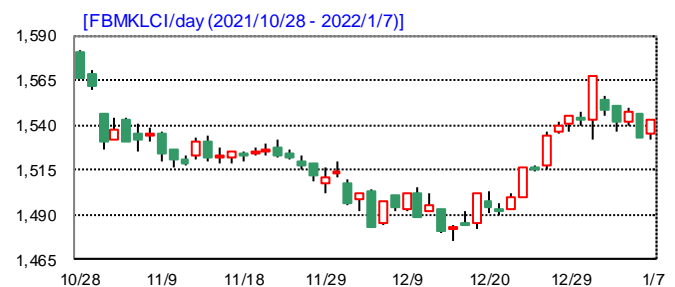


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.6%安、週初の利益確定売りが痛手

クアラルンプール総合指数は週間で 1.6%安と 4 週ぶりに反落。週初に下落すると、その後も不安定な値動きが続いた。3 日は大型株の一角に利益確定売りが出て、指数は前営業日比 1.2%安と反落。4 日に続落した後、5 日はフランスでオミクロン株に続く新変異株の感染が確認されていたことを受けて、ゴム手袋メーカーのトップ・グローブとハルタレガが指数上昇をけん引し、3 日ぶりに反発した。6 日は 21 年 12 月開催の米 FOMC 議事要旨の発表後に米長期金利が上昇した影響で反落したが、7 日は幅広い銘柄に安値拾いの買いが入り、反発して引けている。今週は 10 日発表の 11 月の鉱工業生産が焦点。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。